

松本市森林再生市民会議 令和5年度第2回運営委員会 議事録要約書

日時 令和5年5月15日（月）

午後7時～9時

場所 松本市役所3階 大会議室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 R5年度の取り組み

(1) 森林長期ビジョンについて

- これまでイベントやフォーラムを通じて色々な意見をいただき、それらをまとめた結果、「市民の森林へのアクセス向上」「林産物を生活に組み込む」「森林による安全・快適な住環境」「森林空間を生活に組み込む」という4つの分野に概ね分けることができた。
- ただし、場所や世代を変えて意見を聞くと別の意見が出てくるかもしれないため、今後はさらに意見を集めながら、その精度を高めていくことが必要である。例えば、森林と健康に関する分野や木材利用分野に関する意見は少ない。
- 今年度は引き続き市民からの意見を聞き、ビジョンの骨格を形作る。
- 来年度はビジョンを整えつつ、ビジョン策定後に市民の一人ひとりが目標に向け、活動できるように準備もする必要がある。

(2) イベント及びフォーラムについて

- イベントについて、以下の案が挙げられた。

○牛伏川のフランス式階段工見学

- ・防災や治山の観点から、牛伏川のフランス式階段工を見学してはどうか。防災や治山は森林だけで成立しているのではなく、砂防技術も必要という事例である。「水と緑の会」と「溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える」の2つの団体が協力して活動していることから、講師として話を聞くのも良い。防災や治山の面で特に市民が不安に思う意見を引き出せるのではないかと思う。
- ・時期は、梅雨明けの7月が適当か。
- ・小山委員と三木委員長を中心に調整。

○浅間温泉地区の森林見学

- ・小穴委員がフィールドとしている浅間温泉地区の森林を見学する。山地火災後の植生復元の具体例。市民には具体的な森林再生の進み方のイメージがつきにくいと思うので、その実証としての良い実例である。
- ・時期的は、6～7月が適当であるが、テーマにより季節は特に選ばない。

○森林と健康

- ・森林浴などの体験としてイベントを開催。講師候補として、森林セラピー分野で第一人者の上原巖教授（東京農業大学）を推薦する。
- ・場所は、乗鞍高原（一の瀬）、スカイパーク、あがたの森などが候補地として想定される。

- ・時期的には、涼しくなった9～10月が適当。乗鞍高原の場合は、降雪の関係から10月前半まで。

○ワークショップ

- ・森を好きになってもらうことや、どうやって自然を暮らしの中に溶け込ませていくのかといった点を大事にする。具体的には箸やまな板、コップなどを作ってみる。
- ・場所と時期は、特に選ばない。

○木材利用

- ・森林から得られる経済的価値としては木材利用の分野が最も大きいですが、どうしても専門的な分野になるため、多くの市民からは見えにくい。
- ・やまびこドームでは建築業者が以前イベントを開催しており、そういったイベントに市民会議でブースを出展するという方法も考えられる。また、市内の木造建築物を見て回るという企画も興味深い。
- ・時期的には季節を選ばないが、建築物見学は真夏を避けたほうが良い。

● フォーラムについて、以下の案が挙げられた。

- ・いくつかのブースを設けてそれぞれ展示していただく方法。その場合、フォーラムの場にどうやって市民に来てもらうのか、参加へのインセンティブ(動機)をどうやって高めていくのかが課題である。
- ・ブース展示の場合は、大きめの会場が必要で、場所や季節の選定が重要。6月くらいには参加者向けの仕様が固める必要があり、秋に開催する場合はすぐに準備しなければならない。
- ・時期的には、できれば秋頃が良い。

● その他に、以下の案が挙げられた。

- ・「松本の森林」と聞いて思い浮かべた時に、具体的にどのような環境を森林としてイメージするのか参加者にアンケートしてみると面白いのでは。森林との心理的な距離感もある程度把握できるかもしれない。
- ・森林に入るインセンティブは、生活と関連した個人的なことが多い印象がある。一般の市民は個人的な生活の中から生じる動機が大事なのではと思う。

2 アンケートについて

- 現在、大項目を固めた後、小項目である設問項目を設計していく段階にある。
- 対象者を世帯にするか個人にするかで設問設計が変わってくる。また、趣旨が中途半端だと回答してもらえず回収率が落ちるので、明確にしなければならない。

■ その他

- 松本市では「まつもと子ども未来委員会」という小学生から高校生まで自発的に松本市のことについて考える組織がある。もし機会があればこの委員会に声を掛けて、ビジョンについても説明し意見を聞くこともできると思う。

議事録要約

1 委員長あいさつ

(三木委員長)

令和5年度の第2回運営委員会を開催したい。今日はこの場は5人だけで、Zoomで清水副委員長、渡辺委員が参加となる。(香山、小山委員は欠席)

2 会議事項

(1) 森林長期ビジョンについて

(三木委員長)

始めに昨年度集まった意見をおさらいする。

(補足資料「松本市民にとっての森林」を示しながら) これまでイベントやフォーラムを通じて色々な意見を頂いた。その意見を4つのカテゴリ(自然、地球を守る、森林を楽しむ、森林の恵み)に分けて配置してある。(資料1を示しながら) それを私の方でさらに集約したものが資料1で、中心に「松本の森林」があって、中心に近いほど市民に直接関係の深い意見を配置し、その外側に関連する意見を配置してある。こういった形で市民の方々から頂いた意見を整理してみると、大きく4つくらいの分野に分けられるのではと感じた。

一番中心に近い分野は「市民の森林へのアクセス向上」、その外側に「林産物を生活に組み込む」、「森林による安全・快適な住環境」、「森林空間を生活に組み込む」といった3つの分野となり、これまで出てきた意見はこの中に配置できると思われる。さらに、場所や世代を変えて意見を聞くと、これまでとは別の意見が出てくるかもしれない。今後は意見の精度を上げていくことが必要なのではないか。

森林長期ビジョンは3年間を掛けて作成する予定で、2年目の今年は何をするのかというと、市民からより多くの意見を聞く、あるいは、より正確に聞くといったことが必要になる。アンケートを実施するのもそのための手段であるし、イベントやフォーラムも市民から積極的に意見を頂けるような内容にしなければならない。今年度は意見を聞いてビジョンの骨格を形作り、来年度はビジョンを整えつつ、ビジョン策定後に市民の一人ひとりが目標に向けて活動できるような準備が必要である。

(永原委員)

資料1にある「松枯れ進行への危機感」について、松枯れが進むことで具体的に何に対して危機感を感じているのかという意見を市民から十分に引き出せていないのではないかと。おそらく山崩れといった自然災害に対する危機感への意見ではないかと想像するが、こういった意見を引き出せるようなイベントを企画してはみてはどうか。例えば、治山・治水目的で明治時代に施工された牛伏川のフランス式階段工でイベントを開催すれば、防災の観点から多くの意見を引き出せるのではないかと思う。

(三木委員長)

令和4年度のフォーラムで登壇いただいた鈴木さんは、この階段工に関連する取り組みに関わっておられたと思うので、関係者を紹介していただける可能性がある。市民が何に対して危機感

を感じているかについては、山崩れの他に考えられるとすると、山火事といったようなことかもしれない。

(小口委員)

児童の通学路沿いにある松枯れ箇所では、保護者から倒木による子どもへの被害を心配する声が聞かれ、何度も相談を受けたことがある。

(小穴委員)

市民がよく利用する場所で、防災面や生活安全面の視点からイベントを立案するのは有効であると思う。

(永原委員)

牛伏川のフランス式階段工については、森林だけでなく砂防構造物の力も借りて災害を防いでいる良い事例になる。森林は万能ではないため、森林を健全に保つだけでは災害を防ぎきれず、砂防事業も必要ということがよく分かる事例だと思う。

本来は市民が防災のことを意識しない状況が一番良いが、意識しているという現状は健全とは言えないのではないか。

(清水副委員長)

フランス式階段工がある牛伏川では、「水と緑の会」と「溪流保護ネットワーク・砂防ダムを考える」の2つの団体が協力して活動している。具体的な活動の一例を上げると、スリットダムへの構造転換を河川局と一緒に検討している。生き物の調査を行いつつ構造物の大切さも認識されている。

松枯れのように被害が広範囲に及ぶと、市民が感じる不安が漠然としたものである印象がある。松枯れ木の根が腐朽してなくなるまで10年程度掛かるが、その間に広葉樹が更新してくる。松枯れに伴うマツタケや土壌への影響について相談を受けたことがあり、山に入って活動する市民と街中で松枯れの様子を遠くから見て不安に思う市民とでは、不安の内容が大分違うと感じている。アンケートでもこういった不安の内容は引き出せるのではないか。

(大田委員)

健康と森林については確実に関連性があると思っており、里山や遊歩道といった観点から展開していれば関連付けやすいのではないか。

(三木委員長)

これまでに集まった市民の意見を今回まとめてみたが、まだ意見が少ないと思っている。例えば、子どもではなく大人が森林の中に入って健康になりたいという意見はおそらくあると思が、このまとめの中には反映されていない。ということは、そういった意見やニーズを持つ市民とはまだ繋がっていないということの現れではないか。そういった点が他にもあるのではないか。

(小穴委員)

教育機関と連携した取り組みも一つの分野として取り上げてはどうか。留学生からは外国の視点も取り入れることができ、また、国際交流も兼ねることができて有効であると思う。

(三木委員長)

林産物の分野に関する意見は、手薄の感がある。

(永原委員)

建材や土木資材といった木材利用に関する分野は、現実的には森林と最も関連性が高いと思われるが、意見としては少ないかもしれない。木材利用分野への活動の展開が足りていないということの現れか。

(三木委員長)

多くの市民が自身で扱える木というのは DIY 用の木材や薪といったもので、土木工事事業や建築物用の木材には馴染みが少なく、こういった意見の現れになっていると思う。森林から得られる経済的価値としては木材利用の分野が最も大きいものの、どうしても専門的な分野になるため、多くの市民からは見えにくくなっているということも課題かもしれない。

(2) イベント及びフォーラムについて

(三木委員長)

牛伏川のフランス式階段工については、国の重要文化財にも指定され文化的にも価値が高いほか、非常に美しい場所でもある。松本市民の中でも知らない方はまだまだ多いと想像する。森林と災害との関連についてイベントとして取り組めると面白いのではないか。

森林と健康の観点では、まだイベントとして取り組んでいない。関連するイベントを実施して、参加した市民に意見を伺うのも一つの方法ではないか。また、小穴委員の活動されているフィールドは山林火災後の森林再生の現場ということで、焼け野原からきちんと森林が再生するという証拠を実際に市民に知っていただける環境である。

(永原委員)

いたずらに不安にならなくても、きちんと適切に人が手を加えれば健全に森林は再生する具体例として提示できるのではないか。

(三木委員長)

森林と健康のテーマでイベントを考える場合、松本市内で適当な場所をどこか思いつかないか。

(大田委員)

乗鞍高原（一の瀬）は緩傾斜で木道も整備されていて広いので、候補地として挙げられる。森林浴も楽しめるし、水や鳥の声を聞いたり、アロマや自然のものを活用したイベントを考えられるのではないだろうか。

(三木委員長)

これで少なくとも3つはイベント候補を挙げていただいた。開催時期の点では、牛伏川のフランス式階段工は特に時期を選ばない。浅間地区の現場はいかがが。

(小穴委員)

冬季以外は年間を通じて問題ない。どの時期でもテーマを変えれば開催方法は考えられる。

(三木委員長)

乗鞍高原はやはり夏季か。

(永原委員)

10月の終わりには初雪が降ることもあるため、早いほうが良い。ただ、過ごしやすい季節だと来訪者が多いという問題もある。

(清水副委員長)

長野県に来て20年間で、小学校から大学まで森林に関する活動に参加してきた実感として、その活動の効果が発揮されにくいという印象がある。今現在活動されている委員で、目に見える効果を実感していたら教えてほしい。

(小穴委員)

高校を卒業した女子生徒の方が、父親と一緒に記念に再度活動した場所を訪れてくれたことがある。その方は高校2、3年生の時に森林で様々な活動を体験する中で森林に興味を持ち、活動について自身で発信してくれるような段階にまで至った。継続的に関心を持ってもらう効果は現れ始めていると感じている。

(清水副委員長)

以前、ヨーロッパの都市林近くに住んでいたことがあり、その子ども達は学校で指導されている訳でもなく自ら毎日森に行き行って遊んでいたのを思い出す。20年ほど前に伊那市や南信地域で講師として森林や林業のことを話したことがあるが、一過性に終わってしまい若い人が森林に関心を示さないし、現在でも同じような状況ではないかと思っている。

環境アセスメントセンターから事例を紹介していただいた美濃加茂市の「里山再生プロジェクト」では、林業従事者（フォレスター）から直接話を聞く小学校の学習プログラムがあり、森林を形作っていく仕事の魅力について子ども達に直に伝えていく取り組みがある。この取り組みで実践されている“かっこいい”とか“美しい”とか“遊びやすい”といった森林が有する魅力をうまく伝えられると、若い人たちも森林に対して興味を持ってくれるのではないだろうか。

『森林アメニティ学』という書籍を共著で執筆したことがあり、森と健康について扱っている。森林と健康についてもう少し具体的に教えて頂けないだろうか。非常に面白いし実施した効果が市民の生活に浸透する可能性を有している。

(大田委員)

森は危ない場所というイメージを持っている人が周りでは多く、簡単に入れる場所ではないと思われている。「行きたいけど不安」、「安全な場所と危険な場所の境界が分からないから近づかないでおこう」といった思いの市民が存在するという印象である。そういった方々への橋渡しができるとうい。

(清水副委員長)

やはり場が必要ということか。場を作れるのはフォレスターで、場を作るには伐った木を搬出するといった木材利用分野の活動が必要であり、森林を軸に健康と木材利用とは循環して繋がっているとも言える。

(渡辺委員)

そもそもイベントは何のために開催するのかを考えた時に、個人的には森づくりは人づくりだと思っていて、森を好きになってもらい、どうやって自然を暮らしの中に溶け込ませていくのかといった点を大事にしたい。そのために何ができるかという点、例えばワークショップで箸やまな板、コップなどを作ってみたり、人づくりの部分では教育が大切だと思う。子どもはもちろん大人も含めて「森ってどんな場所なのだろう?」とか「自然の恵みはどこからやってくるのだろうか?」といった点を今の子ども達にもっと伝えたい。楽しくなければ学ぶ効果も薄いと思うので、子ども達が楽しく学べるツールも駆使しながらイベントを開催できたら良いのではないかな。

(三木委員長)

どこかに行く以外に、会場を設けて開催するイベントでも良い。参加者に手を動かしてもらいながら意見を聞ける場になればと思う。なお、松本には木工団地もある。

これまでのイベントでは林業や木工、建築に関する意見が少ないが、あえてこれらの分野に関係するイベントを企画してみるのも良いかもしれない。やまびこドームでは建築業者が以前イベントを開催していたという記憶があるが、そういったイベントに市民会議でブースを出展させてもらうという方法も考えられる。

(永原委員)

やまびこドームがある信州スカイパークは、見方によっては森林として捉えても良いかもしれない。健康増進目的のためランニングコースが作られており、多くの市民が活用している。

「松本の森林」と聞いて思い浮かべた時に、具体的にどのような環境を森林としてイメージするのか参加者にアンケートしてみると面白いのでは。森林との心理的な距離感もある程度把握できるかもしれない。

(清水副委員長)

自分で森林を所有するようになると、森林に対する見方や解像度も変化してくる。そこで、アンケートで森林の所有状況を聞いてみるのも効果的かもしれない。

(三木委員長)

財産区の委員を担当したことのある市民と、全く森林と関わりのない市民とを比べると、また違った意見が引き出せそう。例えば、森林の問題ではなくゴミの不法投棄や獣害といった問題かもしれない。アンケートだけではなく是非ヒアリングもしてみたい。具体的な森林に関わる困りごとや懸念事項についても是非聞いてみたい。

(清水副委員長)

森林に入るインセンティブは、生活と関連した個人的なことが多い印象がある。一般の市民は、林業者の見方ではなく個人的な生活の中から生じる動機が大事なのではと思う。

松本市では建築関係の方々が精力的に活動していて、「建築芸術祭」というイベントを開催している。イベントでは市内の近代建築を見て回るという企画があり、その建築物の多くは木造で、参加者は木造の建物に魅力を感じているのは間違いない。

(三木委員長)

この市民会議と木造建築に関するイベントが上手くマッチするのか未知数の部分は多いものの、やってみると面白いかもしれない。

(清水副委員長)

建築士のグループがいくつかあるが、講師として来ていただくと林業と街や生活が繋がるのではないと思う。委員の増員という形ではなくても良いので、委員会に招待して話を聞くというのも面白いのではないか。林業の川上に関係する方々も川下のニーズや動向を知ることによって新しい展開が生まれてくる可能性がある。

(三木委員長)

残念ながら、事務局から委員の増員はないと伺っている。前回のフォーラムは意見を聞くのが目的だったので、トークセッションやワークショップという形式で良かったと思っている。今年度のフォーラムでは同じ形で同じことをやっても同じ結果が出てくるだけなので、別のやり方で開催できればと思う。いくつかのブースを設けてそれぞれ展示していただくというのも一つの方法である。その場合、フォーラムの場にどうやって市民を誘導するのか、参加へのインセンティブをどうやって高めていくのが課題である。

そうすると、大きめの会場を用意しなければならないので、場所や季節の選定が重要になってくる。個人的にはあまり冬にはやりたくない。秋くらいに開催できないかと思っている。場所についても、去年のフォーラム会場であるあがたの森文化会館は、ブースの設置・展示の面では狭いかもしれない。関係する様々な人達を呼べるとよい。3年目のフォーラムではビジョンを披露する必要があると思うので、自由度が高いのはこの2年目ではないか。

(清水副委員長)

木工の前田先生は全国的に有名な方で、色々なことに興味を持っているのでチェックしてほしい。

い。松本市を代表すると言っても過言ではない。あとは同じく木工の三谷さんはクラフトフェアなどで活躍されている。ブース展示をやるなら視覚的な要素も市民の心に訴求するので、展示方法に配慮した方がよい。

牛伏川のフランス式階段工で活動している人達は、パタゴニアをはじめ色々な協力者と組んでいるうちに、パンフレットなどもとても可愛いものを作っている。それで耳目を集めて柔らかく皆の心に入っていつているようなので、森林も同じかと思っている。

(三木委員長)

イベントは、出てきた案で4、5回は計画できると思う。

(清水副委員長)

イベントについては、一旦出てきた案を精査して、木材の分野がないと話にならないと思うが、林業一辺倒ではなく市民の目線に立ったアピールを考えて、市民が行ってみたいと思うような工夫が必要か。あとは小穴委員の現場に一度皆で行って、小穴委員がいつも力説していることは何なのか実際に直接見てみたい。

今まで出てきたイベント案を集約すると、松枯れ、健康、砂防、ワークショップ、木材の5つになる。委員長から説明のあった図にうまく合致しているか精査すべき。イベントはこれらの案でいけるような気がする。

フォーラムについては、秋くらいに「大博覧会」のような形でブース展示ができれば良いかなと思う。それまでに肅々とアンケートを進めていく予定である。

(三木委員長)

秋にブース展示のような形でフォーラムを開催するなら、6月くらいには仕様が固まっていないといけないので、すぐに準備しなければならない。

イベントに関しても、今から始めて最短で6月下旬にしか開催できない。そうすると梅雨の時期に入っている。そう考えると、今回はアイデア出しだけに留めるというのではなくて、6～7月に何か一つイベントを開催することを具体的に考えなければならない。具体的な計画をイメージしやすいのは浅間地区の小穴委員の現場と牛伏川のフランス式階段工か。時期は梅雨明けの7月くらいを狙って企画を立ててはどうか。浅間地区の方は小穴委員に担当していただくしかない。牛伏川に関しては小山委員がかなり詳しいと思う。階段工の案内は実際に管理しておられる方々に依頼しても良いかもしれない。

健康の点では、乗鞍高原か信州スカイパークかアルプス公園か分からないが、どこかに行って実際に歩きながら健康づくりというイメージか。健康づくりについて何かレクチャーしていただける講師の方がいるとより効果的か。

(清水副委員長)

森林セラピーが専門の上原巖教授（東京農業大学）はどうか。実家が長野市ということもあり気軽に来ていただけるかもしれない。この分野では日本の第一人者で、話もとても上手で、健康づくりのための森はどうあったほうが良いかお聞きすると、とても興味深いのではないか。

(三木委員長)

上原先生のお話を室内で聞く機会は割と多いかもしれないが、先生と一緒に森の中に入ってお話をお聞きするのは、とても貴重な機会になるのではないかな。

(清水副委員長)

牛伏川に関しては、田口さんが砂防ダムに関してとても勉強されており、説明も上手で現場に根ざした活動をされている方なので、とても興味深いお話が聞ける。

(三木委員長)

牛伏川のフランス式階段工については、私と小山委員でどのようなイベントが企画できるか検討してみる。

渡辺委員から提案のあったワークショップは、秋～冬の開催が適当かな。

(渡辺委員)

ワークショップについては、季節、天候を問わずいつでも大丈夫かなと思う。

(清水副委員長)

森と健康に関するイベントの時期はどうか。

(大田委員)

夏は暑くてあまり動きたい気分にならないので、少し涼しくなる9～10月ぐらいが良いのではないかな。

(永原委員)

降雪のことを考慮すると、10月前半までかな。

(三木委員長)

だいたいこのような内容で一年間イベントの準備を進めていきたい。木材分野はあまり季節を選ばないが、仮に建築物を見学するのであれば真夏は避けたい。

(3) アンケートについて

(清水副委員長)

アンケートの骨格は、アンケートを作る手順に従って大項目を固めた後、小項目である設問項目を設計していく段階である。設問設計は森林の所有をどこまで聞くかとか、世帯で配ると家族構成をしっかりと聞かないと結構大変である。回答者はどんな家族構成の中のどういう続柄かを聞かなければならないので、対個人でアンケートを作るか世帯に対して質問をするかでアンケートのボリュームが変わってくるため、まずこの点は話し合わなければならない。どんなことを市民に聞きたいかもっと明確にしないとアンケートが成り立たない。アンケートを行う趣旨が中途半

端だと回答して頂けない市民が増えて、回収率が落ちる。

(三木委員長)

アンケートを世帯に対して送ると、だいたい世帯主となる一番年嵩の男性が答えてしまい、その方々の意見ばかり抽出しても仕方がない。本当は市民の中からランダムに選んだ個人宛に送って回答してもらった方が良いと思うが、実際にできる範囲を模索しながら検討することになるか。

3 その他

(市)

学校に出向くという取り組みも選択肢として考えられる一方で、松本市では「まつもと子ども未来委員会」といって、小学生から高校生まで自発的に松本市のことについて考える組織がある。この組織では「松本市子どもの権利に関する条例」に基づき、子ども達が社会参画することを具現化したもので40人ほどが参加しており、毎年、自分達でテーマを決めて色々なことを研究し市長に提言する活動をしている。もし機会があればこの委員会に声を掛けて、ビジョンについても説明し意見を聞くといったこともできるかと思う。参考までに紹介させていただく。

(三木委員長)

そのような既存の仕組みがあるのであれば、こちらが一から学校に出向くより進めやすいし、子ども達に松本の森林について考えてもらえる良い機会にもなると思う。また情報提供をお願いしたい。

(渡辺委員)

委員の補充は難しいと伺ったが、ゲストのような形で委員会に来ていただいて話を聞くことはできるのか。

(三木委員長)

事務局との協議が必要であるが、我々委員がビジョンを作るに当たって、意見を聞きたい講師を招待することは可能だと思う。

(渡辺委員)

補正予算のめ切が近づいていると思うが、イベントの企画内容やグラレコを実施するための予算とか、広報物に対しての予算を厚くしたいと思っているところもあり、もう少し予算を確保できるのであれば今年予算案に間に合うような設計ができればと思うが、いかがか。

(市)

まだ新年度予算がスタートしたばかりで、今の段階で予算が足りないという要求をするのは難しい。挙げていただいた意見を来年度実行できるようであれば、来年度に向けて予算要求したい。ただ、特定業者等に発注するのは制度上難しいため、予算が取れたとしても入札のような形で決まることになる。

(清水副委員長)

林業関係の委員にお願いがあって、歩くことのできる良い道があったら教えてほしい。道は誰に対しても大切で空間とも関係するので、道に関する取り組みはやりたい。長野県の林道設計を35年やってきた友人が道の大切さを多角的に訴えており頻繁に講師も務めているので、一度その友人の話の披露したいと思っている。道がなければ森に入れなかったり癒やされなかったり健康にもなれない。道はとても大切である。こういった地形のところに道を通すのかとても興味深い。

イベント開催地の案として伊那の大芝高原などは適切かと思っているが、地形的に面白いとは言えないので、地形的に面白い場所があれば是非教えてほしい。林業技術がないと何も実現しないので、その点を積極的にアピールしたい。イベント内容は考えたいと思っている。

渡辺委員からは色々アイデアを出してもらって、どれを選べばいいのだろうかと思ってしまう。もし見学に行くのであれば、木曾のおもちゃ博物館などはどうか。子ども向けだし、先んじて見に行きたいと思うが、将来的に松本市に造っても良いのではないかと思う。子どもを中心に考えたイベントを開催できればと思う。渡辺委員から出た色々な面白いアイデアと林業分野をどう絡められるのか考えたい。

(三木委員長)

議事録の作成時は、今回渡辺委員を中心に挙げていただいたチャット内容も記録として残しておいてほしい。これで今年度第2回目の運営委員会を終了としたい。イベントについては適当に割り振ったが、市民への広報も考慮すると、具体化に向けて急いで決めていきたいと思う。